

様式9

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

「上西郷川における22世紀へむけた
郷川（さとがわ）づくりの実践」

助成番号： 2024-6111-027

上西郷川日本一の郷川をめざす会
代表者 大嶋 正紹

2024 年度

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-027	上西郷川における 22 世紀へ向けた郷川（さとがわ）づくりの実践	上西郷川日本一の郷川をめざす会 大嶋 正紹
活動の目的		
<p>上西郷川の川づくりを進めていくための安定した基盤を形成するためには、活動の継続が不可欠である。このことを踏まえて、川づくりや自然環境などに関する認知度向上、組織強化、ネットワーク構築、流域内連携等に関わる活動を行った。また、前年度に福岡南小学校構内に「雨庭」の設置を行ったことを契機として、流域内に雨庭を実装していくという目標ができた。この目的を達成するために、流域内の幼稚園に流域治水の魅力や効果を伝える雨庭を設置した。</p>		
事業テーマ	(申請書に記載した「申請テーマ」を記載してください。)	
助成事業の要旨	<p>【実施内容】①夏の川遊び体験【対象者】福岡南小学校区の児童及び保護者、福岡南小学校教職員【実施方法・内容】川遊び体験及び魚類等の解説【参加人数】44人②上西郷川視察対応【実施方法・内容】多自然川づくり及び本会の活動の解説【参加人数】24人③神興小学校文化祭への出展（市内コミュニティ組織からの依頼による展示協力）【対象者】神興小学校区の児童および保護者、地域住民【実施方法・内容】パネルによる本会の活動PR及び多自然川づくりの解説、上西郷川に生息する魚類の展示及び解説、上西郷川図鑑の配布【参加人数】200人④イオンモール福津『SUSTAINA.FES』出展【対象者】福津市民、イオンモール福津来店者、イオンモール福津従業員【実施方法・内容】パネルによる本会の活動PR及び多自然川づくりの解説、上西郷川に生息する魚類の展示及び解説、上西郷川図鑑及び上西郷川生き物缶バッジの配布【参加人数】4,000人⑤イオンモール福津における上西郷川の生き物展示【対象者】福津市民、イオンモール福津来店者、イオンモール福津従業員【実施方法・内容】パネルによる本会の活動PR及び多自然川づくりの解説、上西郷川に生息する魚類の展示、上西郷川図鑑の配布【参加人数】4,800人以上⑥第6回郷川づくりフォーラム【対象者】福岡南小学校区・上西郷小学校区内の児童および保護者、福岡南小学校・上西郷小学校教職員、イオンモール福津従業員、福津市職員、地域住民【実施方法・内容】各団体の活動発表、環境省職員からの話題提供、環境保全推進に関わる意見交換、上西郷川図鑑及び缶バッジ・エコバッグ配布【参加人数】118人⑦令和6年度第21回ふくおか水もり自慢！福岡大会への参加【対象者】川づくりに取り組む団体、河川管理行政機関【実施方法・内容】本会の活動の紹介【参加人数】200人⑧行政機関主催行事への参加【対象者】管内住民、環境保全団体【参加行事】①ふくつウェルビーイング大賞応募（福津市主催）、②環境保全団体交流会（福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所主催）【実施方法・内容】①大賞への応募及び活動紹介、授賞式への出席、②環境団体との交流、上西郷川図鑑配布【参加人数】①60人、②40人⑨子ども達と共にSDGsを考える会への協力【対象者】福津市民【実施方法・内容】行事への協力、本会の活動紹介【参加人数】46人⑩雨庭の実装【対象者】福岡南小学校児童、教職員【実施方法・内容】福岡南小学校構内に雨庭を設置</p> <p>【成果】○川遊び体験を通じ、地域住民の上西郷川への興味・関心が高まった。○河川財団の支援により継続的に企業や市民の多自然川づくりへの関心を高めることができた。また、活動を通じて本会の認知度が高まっていったことで、前年度に引き続き地域コミュニティ組織などから協力依頼があり、多様な団体との関係が構築できた。○本会の取り組みへの理解が深まり、前年度に引き続き、九州大学の学生やイオンモール福津の従業員などから活動時の協力が得られるようになった。特に、イオンモール福津にてイベントにおけるスポット展示だけでなく、空きテナントに長期間に渡って上西郷川の魅力を発信する展示ができるようになり、上西郷川や多自然川づくりへの興味関心の向上や地域の自然の素晴らしさを来場者により多く伝えることができた。○郷川づくりフォーラムで流域内連携を深めることができた。○水もり自慢に参加し、流域外に本会の取り組みを広く発信できた。○継続して行政との連携を行うことができた。○流域内に新しい雨庭を実装することができた。</p> <p>【今後の展望】これまでの活動、イベントのさらなる充実・発展と図鑑等の配布による市民の多自然川づくりの取り組みに対する認知度・関心の向上に努めていく。また、活動を通じて構築した様々な団体とのネットワークを活用し、各団体や行政と共働し、川づくりへの参画者の増加を図っていくと共に持続可能な活動ができるよう活動のコアとなる人材の育成及び確保に努めていく。また、市内の教育機関と持続可能な連携と各教委機関で上西郷川に関わる効果的な学習ができるように、教育機関向けの教材の開発に取り組む。</p>	

※ポイントとなる事項に適宜アンダーラインを引いてください。

様式 7

2.川づくり団体部門

[自己評価シート]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-027	上西郷川における 22 世紀へ向けた郷川（さとがわ）づくりの実践	上西郷川日本一の郷川をめざす会 大嶋 正紹
助成事業実施成果の自己評価	<p>【当初目標の達成度】当初計画していた事業については、福間南小学校とのスケジュールが合わず、市民普請による河川工事は実施できなかったが、前年度に引き続き「夏の川遊び体験」を実施するなど、地域の子も達を対象とした環境教室を実施することができた。また、今年度の大きな目標のひとつに掲げていた新たな雨庭の流域内への設置を実現することができた。郷川づくりフォーラムについては前年度に引き続きイオンモール福津で開催し、100 人を超える参加者が集まった。本フォーラムでは本会の活動紹介、福間南小学校及び上西郷小学校の児童による活動報告などを通じ流域内連携が深まっただけでなく、環境省職員の鈴木規慈氏からも話題提供をいただいた。また、令和 6 年度は連携先の行政機関が主催する行事に参加するだけでなく、引き続き、ふくおか水もり自慢に会として参加したことで、流域外で行われている川づくりや地域づくりの取り組みについて学ぶことができた。また、これまでイオンモール福津にてイベント時にスポット的に行っていた本会の展示を、空きテナントを活用し、長期間に渡って実施できることとなった。以上のことから、一部実施できない事業はあったが、得られた成果などを踏まえると当初の目標は概ね達成できたと判断される。</p> <p>【活動の創意工夫点】効果的に参加者や協力者を募集するために、これまで会員が業務や地域活動で積み上げてきたネットワークを駆使して関係者に参加・協力依頼を行った。また、本会活動の大きな柱となっている郷川づくりフォーラムをより効果的な流域内交流の場とするために、前年度に引き続き、会場を大型商業施設であるイオンモール福津とした。また、本会の取り組みを多くの人々に発信するために、行政機関が主催する行事に積極的に参加すると共にイオンモール福津と共働したイベントに出展を継続して行った。</p> <p>【地域や河川管理者との連携】上西郷川の川づくりでは、活動を進めるための組織強化、ネットワーク構築、継続するための人材育成が重要であると考えており、そのためには地域住民や関係者との連携・協力が不可欠である。令和 6 年度については、地域づくりや河川について学んでいる九州大学の学生や地域内のかたがたに協力いただき「夏の川遊び体験」や「ふくおか水もり自慢！」参加など、様々な活動を実施した。大学生や地域のかたがたと連携・協力を図ることで活動の持続性が高まった。また、市内のコミュニティ組織や大型商業施設であるイオンモール福津と連携を図ることで、ネットワークの構築だけでなく、上西郷川の多自然川づくりや地域の自然の重要性を効果的に発信し、地域住民等の興味・関心を高めることにつながった。雨庭づくりについては、福津市を拠点とし、生態学や土木技術の知見を駆使して山林や鎮守の杜等の保全や再生に取り組む NPO 法人 SOMA の瀬戸昌宣代表理事に協力を依頼し、効果的な雨庭をつくることができた。雨庭づくりを通じて地域内の専門家と連携する機会を得たことで、流域治水に関わる取り組みの強化が期待できる。また、今年度は河川管理者である福津市の河川の維持管理部門との共働事業は実施できなかったが、ふくおか水もり自慢に参加することで、福岡県の河川行政担当者に本会の活動を紹介することができ、本会と河川行政機関との連携の素地をつくることができた。また、福岡県の環境保全に関わる部局である宗像・遠賀保健福祉環境事務所の主催する環境保全団体交流会に参加することで、地域の自然環境の保全に関わる担当者との連携のきっかけを設けることができた。</p> <p>【今後の展望】「夏の川遊び体験」や地域コミュニティ組織やイオンモール福津での展示などを通じて、市民等の地域の自然への愛着を育むという大きな役割を担うことができた。また、上西郷川の多自然川づくりはもちろんのこと雨庭を通じて流域治水について考えるきっかけを地域住民に提供することで、防災に関する興味・関心に寄与できた。加えて「ふくおか水もり自慢！」などに参加することで、本会の活動について発信する機会を多く得たことで、地域における川づくりの先進事例としての認知が福津市内外に対して高まった。令和 6 年度の活動を通じて本会の地域における役割はますます重要になった。今後はこの役割を継続して担っていけるよう新たなコアメンバーの発掘に取り組んでいきたい。また、本会の取り組みは郷川づくりフォーラムで話題提供いただいた環境省の鈴木氏からも市内の小学校や地域コミュニティ組織、イオンモール福津などの様々な主体と連携し、地域に根差した生物多様性保全に関わる活動を継続して実施できていることに対して高い評価をいただくと共に、取り組みを継続・深化していくことによって「上西郷川は自然共生サイトに認定される可能性がある」との評価をいただいた。本会の活動が広がっていき、上西郷川が自然共生サイトに認定されることで、本会の取り組みの評価がさらに高まり企業等からの金銭的な支援を得られる可能性もある。今後は自然共生サイトの認定も視野に入れながら活動を進めていきたい。</p>	

1章 活動の目的

本活動は、上西郷川を舞台に川遊び体験、防災・環境学習教室、小学校と連携した教育プログラムの作成などを通じ、福津市内の企業や地域コミュニティ、行政機関などと連携しながら、22世紀に向けた持続可能な郷川づくりを進めるための協力者の獲得や多様な主体とのネットワークの構築を目的としたものである。併せて、多様な主体と連携することで、多くの市民に効果的に上西郷川の魅力及び河川環境の保全の重要性を啓発していくことも目的としている。また、上西郷川を題材にしたイベントを通じて多世代が交流し、子どもたちを健全に育成することができる地域づくりや福津市内外の流域間の連携、市民の地域の自然や歴史・文化などへの興味・関心を高めることを目的としている。また、福間南小学校との連携を重ねていくことで、前年度に同校構内に雨水の流出抑制や環境再生の実践を兼ねた「雨庭（レインガーデン）」の実装を行ったことを契機として、流域内に流域治水の魅力や効果を伝える新たな「雨庭」の設置も目的とした。

2章 活動状況

令和6年度は令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、前年度に引き続き、本会の活動の大きな柱である「夏の川遊び体験」を3年ぶりに実施することができた。

また、川づくりの活動を持続可能なものとし、活動における安定的な基盤を形成するためには、これまでの活動を着実に継続すると共に活動における担い手の確保や人材の育成が重要である。このことを踏まえて、上記の体験活動だけではなく、令和5年度に引き続きイオンモール福津と共働して上西郷川の魅力伝える機会を設けたり、校区外の地域コミュニティ組織主催行事での水槽展示を行った。また、前年度に九州大学の学生のかたがたと交流する機会を設けたことで、大学生からの協力が得られるようになり、上記体験学習の運営が円滑化できたと共に「ふくおか水もり自慢！」での活動報告にもつながった。

「郷川づくりフォーラム」は前年度に引き続き、イオンモール福津を会場としたことで、上西郷川が流れる福間南小学校区だけではなく、上西郷川の上流部や本流である上西郷川が流れる上西郷小学校区の児童や教職員、保護者とも交流することができ、流域内連携の深化や「福間南小学校区や流域校区と連携した人材育成・教育プログラムの確立」の一助とすることができた。また、開催にあたっては環境省福岡事務所の鈴木規慈氏より「環境保全に関する世界的動向」と題し、話題提供をいただいたことで、来場者を含めて生物多様性の保全に関わる学びを深めることができた。また、郷川づくりフォーラムに併せて、イオンモール福津よりイベント時にスポット的に実施していた水槽展示を空きテナント内で行わないかご提案をいただき、長期的に本会の活動を紹介する機会を得た。

加えて、前年度に引き続き、環境保全団体交流会（福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所主催）だけではなく「ふくおか水もり自慢！福岡大会」に参加することで、本会の活動を他の流域の団体に発信強化につながった。

雨庭の実装については福津市を拠点とし、生態学や土木技術の知見を駆使して山林や鎮守の杜等の保全や再生に取り組むNPO法人SOMAの瀬戸昌宣代表理事の協力のもと、上西郷川が流れる福間南小学校区内のしらぎく幼稚園に本格的な雨庭を設置することができた。それが実現できたことで、流域治水の魅力や効果を伝える場を設けることができた。

なお、地域住民や児童と共働した市民普請による魚類の生息場所創出活動についてはスケジュールの都合で実施できなかった。

本会の活動の認知度が高まっていくにつれて、市内の学校や地域コミュニティなどからの展示要望が増えていく中で、本会の活動への理解を深めたり、協力者を増やしたりしていくためには印刷物や広報・PRに関するグッズの作成が不可欠である。令和6年度は引き続きイベント時に配布するためのエコバッグの追加制作と上西郷川図鑑の増刷を行うことができた。

以上が令和6年度の活動状況であるが、継続実施してきた事業でも内容の充実化に取り組むことができた。また、既存の活動だけではなくイオンモール福津における長期的な水槽展示という、新しい活動も取り入れることで、今後の本会の活動の幅が大きく広がる1年となった。なお、令和6年度に本会が実施したそれぞれの活動状況の詳細については、各項ごとに記述している。

令和6年度の主な活動

1. 夏の川遊び体験
2. 上西郷川視察対応
3. 神興小学校文化祭への出展（市内コミュニティ組織からの依頼による展示協力）
4. イオンモール福津『SUSTAINA. FES』出展
5. イオンモール福津における上西郷川の生き物展示
6. 第6回郷川づくりフォーラム
7. 令和6年度第21回ふくおか水もり自慢！福岡大会への参加
8. 行政機関主催行事への参加
9. 子ども達と共にSDGsを考える会」への協力
10. 雨庭の実装

2. 1. 夏の川遊び体験【令和6年7月20日開催】

（1）活動の目的

上西郷川の魅力を他の流域の住民に伝え、河川をはじめとした自然環境や生物多様性の保全の興味・関心を高めると共に、多様な主体と連携を図り、自然環境保全や地域づくりに関わる流域間交流を行うことを目的とした。

（2）対象者

福間南小学校の児童及び保護者、地域住民

（3）実施方法

教職員の協力のもと、福間南小学校に川遊び体験の申込書を配布した。安全管理上、定員は50名とし、先着順の申し込みとした。

会場の設営、安全管理、イベントの進行は本会の会員で行った。また、子どもたちが川の中に入る場合はフローティングベストの着用をお願いした。

採集した生物の解説は本会の共同代表で九州大学准教授の林博徳及び本会会員が行った。また、会場設営やイベント運営については九州大学の学生3人と地域住民5名に協力いただいた。

(4) 活動内容

はじめに上西郷川が多自然川づくりによって、以前の自然あふれる姿を取り戻したことを解説すると共に、多自然川づくりによって、洪水などの水害を防ぐことができることを解説した。また、熱中症やの予防や、河川内での危険な行為をしない、フローティングベストを着用することなど、安全管理の指導を行った。

その後、1時間ほど河川内で魚類をはじめとした生き物の採集を行った。生き物を採集した後は、本会の共同代表である林博徳が中心となって、採集した生物の解説を行った。解説時には河川基金の支援で作成した上西郷川図鑑と上西郷川観察ノートを配布した。

(5) 参加人数

44人

内訳 福間南小学校区児童・保護者 31人

スタッフ 13名（協力者8人含む）

(6) 他機関連携など

九州大学流域システム工学研究室、福間南小学校

(7) 事業の成果

上西郷川での川遊び体験を通じて実際に自然や生物に触れることで、児童や保護者の河川環境や生物多様性の保全に対する興味・関心を高めると共に、地域の自然の魅力を伝えることができた。参加者のかたがたからも「楽しかった」「来年もまた参加したい」といった好意的な感想を聞くことができた。

また、今年度は昨年度に協力いただいた九州大学の学生3人と共に5人の地域住民のかたがたが協力してくださったことで、安全管理体制も強化できたと共に円滑なイベント運営を行うことができた。



写真 2.1 生物採集を行う参加者

2. 2 上西郷川視察対応【令和6年7月26日】

(1) 活動の目的

上西郷川の多自然川づくりの取り組みは地域で取り組む川づくりとして学会などから高い評価を得ている。今回、大阪市にある建設コンサルタントである「中央復建コンサルタンツ株式会社」の環境防災部門の技術士のかたがたより視察の依頼があったため、本会の活動の取り組みを技術士のかたがたに発信することを目的とし、対応を行うこととした。

(2) 対象者

中央復建コンサルタンツ株式会社の技術士

(3) 実施方法

視察者のかたがたに本会の共同代表である林博徳が上西郷川の多自然川づくりの経緯や治水の取り組みなどの解説を行った。

また、本会の共同代表である大嶋正昭と副会長の佐藤真弓が地域の取り組みに関する説明を行った。

参加者には資料として河川基金の支援で作成した上西郷川図鑑を配布した。

(4) 活動内容

本会の共同代表である林博徳に中央復建コンサルタンツ株式会社の環境・防災系部門流域治水グループ統括リーダーの森兼政行氏より「上西郷川の現地視察を行いたい」との相談があり、対応を行うこととした。

視察当日は林共同代表が中心となって上西郷川を視察者のかたがたを案内し、上西郷川の河川再生は地域住民などがワークショップを通じて「市民にとって親しみやすい郷川」をめざして行われたことや川幅を広げたり自然再生と合わせて調整池を整備したりしたことなどについて解説を行った。

また、大嶋共同代表及び佐藤副会長から福間南小学校との連携や郷川づくりフォーラムなど、地域の教育機関や団体などと連携して行っている活動について説明を行った。

当日は視察に来られた技術士のかたがたから多自然川づくりプロセスや地域連携の取り組みなど様々な質問が寄せられ、視察者の関心の高さがうかがえた。

(5) 参加人数

24人（うち、本会会員4人）

(6) 他機関連携など

中央復建コンサルタンツ株式会社、九州大学流域システム工学研究室

(7) 事業の成果

本会として行政機関に対する視察対応は実施したことはあるが、会としての企業向けの視察対応は初めてだったため、視察対応の方法について学ぶことは、今後の企業対応につい

でのノウハウの蓄積に繋がった。また、県外の治水や防災などに携わる専門職のかたがたに視察を通じて本会の活動内容について発信できたことは、本会の取り組みを流域外に広めていくことに大きく寄与した。



写真 2.2 視察状況

2. 3 神興小学校文化祭への出展（市内コミュニティ組織からの依頼による展示協力）【令和6年11月16日】

（1）活動の目的

昨年度に引き続き、福津市内の地域コミュニティ組織である「神興地域郷づくり推進協議会」と連携し、神興小学校の文化祭である「ハッピーフェスタ」で上西郷川の多自然川づくりの取り組みを福岡南小学校区外の地域住民に伝え、河川環境や生物多様性の保全の興味・関心を高めると共に、本会の活動の周知およびPRを目的とした。

また、本会と地域自治活動の基軸となる郷づくり推進協議会との間で河川環境保全に関するネットワークを構築することを目的とした。

（2）対象者

神興小学校区内の児童および保護者、地域住民

（3）実施方法

上西郷川に生息する魚類等の水槽展示を行った。展示に当たっては事前に本会会員と神興小学校PTA役員が生物を採集した。

会場となる神興小学校の構内にある「神興郷づくり交流センター」への水槽の搬出入と展示ブースの設営は本会会員と神興地域郷づくり推進協議会役員及び神興小学校PTA役員と協力して実施した。

当日は河川基金の支援で作成した本会の活動を紹介するパネル（B1サイズ）を展示した。また、来場者に河川基金の支援により作成した上西郷川の魅力を伝える「上西郷川図鑑」を希望者に配布した。配布対象は年齢に関わらず、全ての希望者を対象とした。

展示内容や当日の流れについては、郷づくり推進協議会の役員及び事務局員と事前に打ち合わせを行った。

展示に関わる周知は、小学校が行う自治会に向けた回覧文書などで告知が既に行われていたので、特に実施しなかった。

(4) 活動内容

令和5年度に神興地域郷づくり推進協議会（以下、協議会）の会長から「神興小学校の文化祭（ハッピーフェスタ）に水槽展示ができないか依頼があり、本会として協力を行った。昨年度の展示が好評だったため、協議会から令和6年度も引き続きを協力してほしいとの依頼があった。

本会としては、地域自治の根底を担う郷づくり推進協議会との連携は多ければ多いほど活動の幅が広がっていくので、令和6年度のついても協力を行うこととした。

展示の準備は、11月16日のイベント開始時間前までに本会会員と協議会役員、神興小学校PTA役員で行った。

展示自体は11月16日の13時から16時まで行った。

展示ブースには河川基金の支援により購入した水槽を3つ・活動紹介の掲示物を2枚設置し、必要に応じて本会会員が魚類などの展示物の解説を行った。

当日は多くの児童や教職員、保護者、地域住民などが来場した。

上西郷川図鑑は準備していた200部全てがなくなり、小学校区は異なっても上西郷川への地域住民の関心の高さがうかがえた。

展示物の撤収作業は本会会員と協議会役員、神興小学校PTA役員で協力して行った。

(5) 参加人数

200人

(6) 他機関連携など

神興地域郷づくり推進協議会、福津市立神興小学校、神興小学校PTA、九州大学流域システム工学研究室

(7) 事業の成果

昨年度から引き続き、神興地域郷づくり推進協議会という校区外の地域コミュニティ組織と共働し、本会の活動に関する展示を実施できたことは「上西郷川は校区に関わらず、福津市全体の宝である」という視点に基づいて上西郷川の魅力や河川環境保全の重要性を伝えることが可能となった。特に本会のブースは河川基金の支援で実現した実際の生物の展示や上西郷川図鑑の配布など、来場者の興味を引くコンテンツが複数あったため、多くの来場者があり、地域住民に対し効果的に啓発活動を行うことができ、河川環境や生物多様性の保全に対する興味・関心を高めることができた。児童や保護者からも「とても楽しかった」との感想をいただいた。また、教職員やPTAのかたがたからも展示に関するお礼の言葉をいただくと共に、教職員のかたから川に関する学習の質問などもいただき、環境

学習に対する関心の高さがうかがえた。

神興小校区は上西郷川の本流である西郷川に注ぐ桜川や小竹川といった支流もあり、上西郷川の川づくりを紹介することは、今後の神興小校区の川づくりや流域内連携のきっかけづくりにも寄与したのではないかと考えられる。

また、この展示協力のきっかけは本会の活動の積み重ねによるものであり、他の団体とのネットワークが維持されていることを実感することができた。校区外の地域自治コミュニティ組織とも連携を図ることで、そのことがコミュニティ組織間でも話題となり、他の校区でも本会の活動に関心を持っていただくことができたため、今後の活動の広がり期待が持てる結果となった。



写真 2.3 神興郷づくり交流センターでの展示の様子

2. 4 イオンモール福津サステナフェス 2024 出展【令和 6 年 11 月 2 日～11 月 10 日】

(1) 活動の目的

福津市内の大企業であるイオンモール福津と連携し、上西郷川の魅力を地域住民等に伝え、河川環境や生物多様性の保全の興味・関心を高めると共に、河川環境保全に関わる企業との連携強化を目的とした。

(2) 対象者

福津市民、イオンモール福津来店者、イオンモール福津従業員

(3) 実施方法

当日は上西郷川に生息する魚類等の水槽展示を行った。展示に当たっては 10 月 19 日に本会会員が生物を採集した。

イオンモール福津への生物の搬入及びブースの設営は 11 月 2 日に本会会員が実施した。

展示している生物の解説は本会会員が実施した。

河川財団の支援により作成した本会の活動や多自然川づくりの取り組みを紹介するパネル (B1 サイズ) を展示した。

11月4日は福津市主催の環境フォーラムに合わせて来場者を対象に、河川財団の支援により作成した「上西郷川生き物缶バッジ」を配布した。また、河川財団の支援により作成した、上西郷川の魅力を伝える「上西郷川図鑑」を希望者に配布した。図鑑の配布に当たっては年齢に関わらず、希望者を対象とした。

図鑑の配布等は本会会員と協力者で行った。

展示内容や当日の流れについては、イオンモール福津のイベント担当者と事前に打ち合わせを行った。

イベントの周知はイオンモール福津のホームページ及び福津市役所の公式ホームページを通じて実施した。

展示物の撤収については11月10日に本会会員が実施した。

(4) 活動内容

この活動の経緯は、令和3年度に福津市役所の企業連携の窓口である部署に、イオンモール福津の担当者より「令和元年にSDGs未来都市に選定された福津市やイオンモールの持続可能な取り組みを、市民に知ってもらい、体感してもらうイベントである「イオンモール福津サステナフェス」を開催したいので協力してほしいとの依頼があったことから始まった。その際、市役所を通じて本会の活動を知ったイオンモール福津の担当者から、本会に対して「イベントでイオンモール福津のすぐ近くを流れる上西郷川の生き物を展示してもらえないか」との依頼があった。本会にとっても市内の企業と連携を図っていくことは今後の活動の広がりにつながるため、協力依頼を受けることとした。その後、令和4年度と令和5年度も上西郷川の生き物や川づくりの展示を行い、令和6年度の展示が4回目となる。

イオンモール福津サステナフェスでは各ブースとの調整もあり、これまでは期間内の1日限定の展示であったが、イオンモール福津の担当のかたより「見学者からも人気のあるブースのため、1週間ほど展示ができないか」と相談があった。今年度は11月1日から12月1日がイベントも期間であったが、神興小学校の文化祭での展示も控えていたため、11月2日から10日にかけて展示を行うこととした。

また展示期間中は福津市主催の環境フォーラムに合わせて、11月4日の1日限定で河川財団の支援で作成した上西郷川図鑑と上西郷川生き物缶バッジの配布を行うこととした。展示は10時から219時の間に実施し、水槽の搬入およびブースの設営は11月2日の7時から9時の間に行った。また、撤収については11月10日の17時から19時の間に行った。

11月4日の展示解説及び図鑑等の配布は10時から17時まで行った。

展示ブースには、水槽を2つ・活動紹介のパネルを2つ設置した。

11月4日の図鑑等の配布日は子どもを中心に大勢の来場者があった。上西郷川図鑑は720部を配布し、缶バッジも1,000個がなくなるほどの盛況ぶりであった。

(5) 参加人数

4,000人

※缶バッジの配布数1,000個より推計。4人家族で来場したとして1,000×4で算出。ただ

し、実際の来場者はこの数字より多いと推測される。

(6) 他機関連携など

イオンモール福津、九州大学流域システム工学研究室、福津市経営戦略課

(7) 事業の成果

これまで、本会でイベントを開催したとしても、会場の関係や告知方法などで50人程度しか参加者を集めることができなかつたが、イオンモール福津と連携することで、令和3年・4年・5年度に続き数千人規模で上西郷川の魅力や河川環境保全の重要性を伝えることが可能となった。特に11月4日における本会のブースは河川財団の支援で実現した実際の生物の展示や上西郷図鑑の配布など、来場者の興味を引くコンテンツが複数あったため、当日のブースの中でも最も賑わっていた。多くの来場者が来たことで、本会会員もイオンモール福津の担当者も展示及びイベントの目的が達成されたことへの手応えを感じる活動となった。さらに、11月4日以外は水槽とパネルのみではあったが今年度は11月2日から10日に渡って本会の展示を行ったことで、例年以上の来場者が本会を見たこと推測され、見学者に対する本会の活動の周知や上西郷川に関する興味・関心の向上に寄与した。実際に会期中に展示状況の確認に行くと、多くの来場者が立ち止まって展示を見学していた。

さらに本会の活動が認知されていくにつれて、今回の展示にあたって、昨年度に引き続き、野中満寿美氏や佐藤謙二氏、阿部幸子氏の協力を得ることができた。また、新たに地域住民の野口浩光氏にもご協力いただいた。協力者の皆様には「点」の形でそれぞれが可能な場面で協力いただいたことで、それが「線」になり活動の円滑化が進んだ。これは本会の活動における課題である人材の不足の課題解決の一助になった。

イオンモール福津での展示は今回が4回目で展示の調整なども大変スムーズに行うことができた。これは、市内の大企業であるイオンモール福津との連携体制がほぼ確立できたと言っても過言ではないと考えられる。イオンモール福津との連携体制が構築できたことは後述のイオンモール福津を会場とした「郷川づくりフォーラム」の開催や「空きテナントを活用した水槽展示」にもつながっている。これらの成果は、本会がこれまで目指してきた地元企業との河川環境の保全のネットワークづくりが深化していることを表している。また、今回の活動を通じて、昨年度に続いて企業と連携することで屋外での活動とは異なる形で市民が自然と親しむ機会を創出することができた。加えて、本会だけでは集めることができない人数に対して、河川環境や生物多様性の保全、多自然川づくりへの興味・関心を高めたことで啓発の効果が大きく高まった。



写真 2.4 展示ブースの様子

2. 5 イオンモール福津における上西郷川の生き物展示【令和7年3月8日～】

(1) 活動の目的

福津市内の大企業であるイオンモール福津と連携し、上西郷川の魅力を地域住民等に伝え、河川環境や生物多様性の保全の興味・関心を高めると共に、河川環境保全に関わる企業との連携強化を目的とした。

(2) 対象者

福津市民、イオンモール福津来店者、イオンモール福津従業員

(3) 実施方法

上西郷川に生息する魚類等の水槽展示を行った。展示にあたっては11月に開催したイオンモール福津サステナフェス2024や神興小ハッピーフェスタで展示した生物に加え、地域の自然環境に造詣の深い渋田洪田正嗣氏にご協力いただき本会会員が3月8日の展示当日に追加採集した生物を展示した。

イオンモール福津への生物の搬入及びブースの設営は3月8日に本会会員が実施した。

展示している生物の解説は本会会員が実施した。

河川財団の支援により作成した本会の活動や多自然川づくりの取り組みを紹介するパネル（B1サイズ）を2枚展示した。

また、見学者を対象に河川財団の支援により作成した、上西郷川の魅力を伝える「上西郷川図鑑」を希望者に配布した。図鑑の配布に当たっては年齢に関わらず、希望者を対象とした。図鑑の配布はなくなり次第終了とした。

展示内容や設営については、イオンモール福津の担当者と2月28日に事前に打ち合わせを行った。

また、生物の餌やりはイオンモール福津の従業員が行い、水替えなどの作業は本会会員が行った。

(4) 活動内容

この活動はイオンモール福津サステナフェスでの実績に基づきイオンモールの担当のかたより「空きテナントがあるので、そこで上西郷川の生き物の展示をしてはどうか」とのご提案があったことで実現したものである。

これまで4回にわたってイオンモール福津で上西郷川に関わる展示を実施してきたが、本会の展示は多くの来場者の目を引く人気のブースとなっていた。イオンモール福津の担当のかたからは「空きテナントの状態よりも上西郷川の生き物を展示した方がお客様にも喜んでもらえるし、地域貢献にもつながるのでぜひご検討いただきたい」とのありがたい言葉をいただいた。

本会としても多くの来場者のあるイオンモール福津で上西郷川や本会に関わる展示ができることは、地域住民をはじめとした多くの人々に本会の活動紹介や多自然川づくりへの興味・関心を高める機会の創出につながるため、展示を行うこととした。

空きテナントの展示ブースには、河川財団の支援で整備した水槽を4つ・活動紹介のパネルを2つ設置した。

また、河川財団の支援で作成した上西郷川図鑑の配布も行った。配布予定だった500部は令和7年3月31日までに全て配布が終了してしまった。

(5) 参加人数

4,800人以上

※イオンモール福津は大型商業施設であり平日でも数千人、休日になると1万人から2万人の来場者がある。見学者の人数の正確な把握はできないが、本会の展示を1日200人見学したと仮定し、3月8日から3月31日までの24日間で4,800人が見学したと暫定の数値を記載した。実際はもっと多い見学者がいると推測される。

(6) 他機関連携など

イオンモール福津、九州大学流域システム工学研究室

(7) 事業の成果

これまで、本会におけるイオンモール福津での展示は1日限定の展示が中心で最も長い展示は令和6年11月2日から10日までに実施したサステナフェス2024における展示であった。今回は令和4年度と5年度に実施した福津市複合文化センターでの夏休み期間中に約1カ月行った展示以上の長期展示になると予測される。本会においてはこのような長期間の展示経験のない中で、長期間の展示ノウハウを集積するとても良い機会となった。

また、長期的に展示を行うことで、イベント時に来場していなかった来場者に対して本会の展示の見学機会を提供することにつながり、見学者に対する本会の活動の周知や上西郷川に関する興味・関心の向上に寄与した。実際に展示状況の確認に行くと、多くの来場者

が立ち止まって展示を見学していた。本会会員にも多くのかたがたから「展示を見た」との声が寄せられる他、福津市の広報紙の読者のコーナーに本会の展示を見たという投稿がなされるなど、多くの地域住民の反響があり、本会としてもこの取り組みに対する手応えが高まった。

また、イオンモール福津からこのような機会を与えていただいたことは同モールとの連携体制や信頼関係がほぼ確立できたと言っても過言ではないと考えられる。イオンモール福津との連携体制が構築できたことは本会がこれまで目指してきた地元企業との河川環境の保全のネットワークづくりが深化していることを表している。後述する令和7年3月15日に開催した郷川づくりフォーラムの後に、環境省の鈴木規慈自然保護官にも展示を見学いただいたが「イオンモール内で地域の環境保全団体が生物多様性に関わる長期的な展示を行ったケースは見たことがない。川づくりの団体と企業連携の素晴らしい事例である」と高い評価をいただいた。



写真 2.5 空きテナントを活用した展示の様子

2. 6 第6回郷川づくりフォーラム【令和7年3月15日】

(1) 活動の目的

上西郷川は多自然川づくりの手法により本来の自然豊かな姿を取り戻し、10年以上が経過したが、持続可能な川づくりを実現していくためには福津市民にとって上西郷川が「地域の宝」であるとの認識を深め、上西郷川のファンを増やしていくことが不可欠である。

本会では上西郷川が持つ魅力や防災の機能、河川環境や生物多様性の保全の重要性などを福間南小学校4年生の環境学習時やイオンモール福津のサステナフェスでの展示を通じて伝えているが、市民に上西郷川は「地域の宝」であるとの認識を深めていくためにはオープンな場で上西郷川について参加者と考える場が必要である。また、活動の継続や幅を広げていくためには流域内の連携も欠かせない。

そこで令和5年度に引き続き、令和6年度の郷川づくりフォーラムは上西郷川をはじめとした市内の自然は「地域の宝」であることを参加者と共有し、地域の自然のファンを増やすことと上西郷川の流域内交流の実現を目的に開催することとした。

これらの目的を達成するために、前年度に引き続き、イオンモール福津を会場とすると共に、福間南小学校の児童や教職員だけではなく、本会の会員が環境学習への協力で交流のある上西郷小学校のかたがたにも参加の依頼を行った。また、今回は自然環境の保全に関する興味関心を高めるため、環境省福岡環境事務所の鈴木規慈自然保護官に参加を依頼した。

(2) 対象者

福津市立福間南小学校 4 年生児童及び保護者、福津市立福間南小学校教職員、福津市立上西郷小学校 4 年生児童及び保護者、福津市立上西郷小学校教職員、イオンモール福津従業員、地域住民、福津市、福津市教育委員会

(3) 実施方法

会場についてはオープンな場で多くの人が共に語らうことができる場として、イオンモール福津内のイオンホールを借用した。

イオンホールの借用に当たっては本会がイオンモール福津のサステナフェスでの展示などイオンモール福津との連携実績があることから、昨年度に引き続き借用に快諾いただいた。

本会から福間南小学校、上西郷小学校、環境省福岡事務所の鈴木氏に参加依頼を行った。フォーラムのフライヤーは本会の林共同代表が作成した。作成したフライヤーは本会会員が学校などに配布すると共に、イオンモール福津のイベント紹介ホームページに掲載いただいた。

会場の設営は 3 月 15 日当日に本会会員と協力者の佐藤謙二氏、野口浩光にご協力いただいた。佐藤氏には前日の物品の買い出しなどにもご協力いただいた。

また、当日の運営は本会会員と協力者の野中満寿美氏、阿部幸子氏が中心となって実施した。

(4) 活動内容

イオンホールの会場には河川基金の支援で作成した本会の活動や多自然川づくりに関するパネルを掲示した。また、参加者の受付の際に、河川財団の支援で作成した上西郷川図鑑を配布した。また、活動報告を行った児童及び教職員には河川財団の支援で作成した上西郷川観察ノートとエコバッグ及びトートバッグを配布した。また、当日はスタッフであることが分かるよう本会会員及び協力者は河川財団の支援で作成したスタッフジャンバーを着用した。

会場には本会の紹介パネルだけではなく、福間南小学校の環境学習の成果を展示した。開会にあたって、本会共同代表の大嶋正紹より挨拶を行い、本会会員による多自然川づくりと活動紹介、福間南小学校 4 年生の上西郷川に関わる学習成果報告、上西郷小学校 4 年生の上西郷川の本流である西郷川に関する学習成果報告、環境省福岡事務所の鈴木氏による話題提供の順で発表等を行った。鈴木氏からは「環境保全に関する世界的動向」と題し、世界的な生物多様性保全の取り組みやネイチャーポジティブの考え方などについて講演い

ただいた。

各団体の事例発表を 70 分ほど行った後、休憩時間を 20 分ほど設けた。この時間に参加した参加者を対象に河川財団の支援で作成した「上西郷川生き物缶バッジ」を配布した。

休憩後、本会の共同代表で九州大学准教授の林博徳のコーディネートのもと、川や生き物に関する質問コーナーや各団体の事例発表を踏まえ「みんなで話そう 未来に向けた郷川づくり」をテーマとして、会場全体で意見交換のワークショップを行った。

ワークショップの質問コーナーでは福間南小学校と上西郷小学校の児童や見学に来た保護者からウナギに関する質問などが寄せられた。また、児童たちにとって初めてお話を聞く環境省の職員のかたが新鮮だったようで「環境省の職員は何人いるのか」「環境省はいつからあるのか」「環境省の職員になるにはどうすればいいのか」など、環境省に関わる様々な質問が寄せられ、大変盛況であった。質問には林共同代表と鈴木自然保護官が中心となって回答した。ワークショップのテーマである「未来に向けた郷川づくり」については本会の大嶋共同代表が思いを述べた。鈴木自然保護官からは「上西郷川や西郷川で行われている子どもたちの学びや上西郷川での多自然川づくりの取り組みは地域の生物多様性を守るために重要な活動である。今後もぜひ活動を継続して行ってほしい」と応援のメッセージをいただいた。

ワークショップは 40 分を目途に終了し、閉会の挨拶は大嶋共同代表が行った。

(5) 参加人数

122 人

内訳	福間南小学校児童・教職員	27 人
	上西郷小学校児童・教職員	10 人
	環境省福岡事務所職員	1 人
	本会会員（協力者含む）	9 人
	イオンモール福津従業員	2 人
	保護者・地域住民等	73 人

(6) 他機関連携など

福津市立福間南小学校、福津市立上西郷小学校、イオンモール福津、福津市教育委員会、福間南地域郷づくり推進協議会、四角区自治会、上西郷地域郷づくり推進協議会、九州大学流域システム工学研究室、環境省福岡事務所

(7) 事業の成果

これまで本会では郷川づくりフォーラムを 6 回開催したが、今回のように大規模に開催したのは前年度に引き続き 2 回目の試みであった。イオンモール福津のかたがたのご厚意でイオンホールという大きく、見学を希望するかたも気兼ねなく入室できる会場を使用できたことで、前年度に引き続き多くの方がフォーラムに参加した。その結果、本会が目的に掲げていたフォーラムを通じて多くの人に上西郷川は「地域の宝」であるという認識を深めていただく機会を設けるといった目的を達成することができた。特に福間南小学校と上西

郷小学校の児童の学習成果報告は多くの参加者のかたに思いが伝わる素晴らしい内容であり、好評を得た。

また、会場の利用や準備にあたってはイオンモール福津のかたがたに協力いただいた。本会は会員の高齢化や固定化、担い手の不足という課題を持っている中で会員ではなくとも企画などに入り込んでくださる協力者を得られたことは今後の会の運営においても大きな成果であった。

流域内連携という観点からも川でつながる福間南小学校と上西郷小学校の児童や教職員が一堂に会し、それぞれの取り組みを共有し、ワークショップを通じて交流する機会を継続して設けることができたことは取り組みの持続可能性からも大きな成果であった。両小学校の児童にとっても、それぞれの学校で行われている河川環境に関わる学習や校区内の自然について知る機会を得られたことはとても楽しかったようで、ワークショップも大変盛況であった。このようにフォーラム自体は2時間程度の短い時間であったが、この時間だけでも児童の交流が生まれたり、イオンモール福津の従業員や地域住民のかたがたに市内の小学校の取り組みをより深く知っていただいたりしたことで、流域内連携が進んだのではないかと考えられる。フォーラムには福間南小学校と上西郷小学校の両校長先生も見学に来られ「今年度も引き続きフォーラムを開催していただいてよかった。素晴らしい取り組みなのでぜひ来年度も実施してほしい」と好評価をいただき、会員のモチベーションアップにつながった。また、鈴木自然保護官からも「我が国は30by30の目標に基づき自然共生サイトの認定場所の増加を目指しているが、上西郷川で行われている多自然川づくりは認定に値する取り組みであると考え。今後も活動を継続し、自然共生サイトの認定をめざしてほしい」との評価とメッセージをいただいた。これは今後の活動への大きな励みになった。

以上のように、今回のフォーラムは参加者のかたがたに上西郷川や西郷川が「地域の宝」であるという認識を深めていただく場になったと共に流域内交流を促進する場にすることができた。また、参加者のかたがたから様々な好意的な意見や感想が寄せられると共に、活動の強化や幅を広げていくための良い機会となった。

今回の郷川づくりフォーラムはこれまで実施したフォーラムの中で、もっとも有意義なものとなり、今後の活動の展開に対して会員一同確かな手ごたえを感じる場となった。本フォーラムは次年度以降も継続し、話題提供の多様化、参加団体の増加などを図り、流域内外の交流や団体間のネットワーク構築、担い手の発掘など様々な効果をもつ場として育てていきたい。



写真 2.6 上西郷小学校 4 年生の発表の様子



写真 2.7 鈴木自然保護官の話題提供の様子

2. 7 令和 6 年度第 2 1 回ふくおか水もり自慢！福岡大会への参加【令和 6 年 12 月 8 日】

(1) 活動の目的

「ふくおか水もり自慢！」とは福岡県内の「水」や「森」に関わる活動を行っている市民団体や NPO、行政、企業、専門家などが一堂に会し、団体間の交流や市民団体と行政とのパートナーシップの促進、他の団体の活動状況や手法を学び今後の活動の糧とすることなどを目的に開催される行事である。

昨年度に本会として嘉麻市で開催された「ふくおか水もり自慢！」に初めて参加したが、令和 6 年度の開催に際し、事務局から本会へ参加の依頼があると共に本会の共同代表である大嶋正紹に実行委員長就任の打診があった。

本会は福津市を流れる上西郷川をフィールドとしているが、川づくりに取り組む他団体の活動について知る機会が少なかったため、昨年度に引き続き、今後の活動に向けた知見を増やすことを目的に本行事に参加・協力することとした。

(2) 対象者

福岡県内の「水」や「森」に関わる活動を行っている市民団体、NPO、行政、企業、専門家

(3) 実施方法

「ふくおか水もり自慢 in 遠賀川」の事務局に申し込みを行った。

「ふくおか水もり自慢」にて本会の活動報告を行うため、パワーポイントを用いてスライドを作成した。

令和 6 年度の「ふくおか水もり自慢」は福岡市東区の「九州産業大学」で開催され、本会から協力者を含めて 4 名が参加した。

(4) 活動内容

当日は本会の共同代表で今大会の実行委員会長である大嶋正紹があいさつを行った。

その後、気象予報士である渡司陵太氏による異常気象に関する話題提供があった。

話題提供の後は豊の国海幸山幸ネットの原賀いずみ氏のコーディネートで「団体運営の未来を考えるトークセッション」と題し、福津市で活動する「津屋崎千軒海とまちなみの会」と「くらげれんごう」による団体運営の在り方などに関するトークセッションが行われた。その後「これからの「水もり自慢！」の未来を描くリレートーク」が行われた。このリレートークには本会の共同代表である九州大学の林博徳准教授の他に、九州産業大学の伊豫岡宏樹准教授、熊本県立大の島谷幸宏教授が登壇した。

リレートークの後の活動報告には本会を含めて川づくりなどに取り組む 33 団体が参加し、活動報告を行った。活動報告はパワーポイントでスライドを作成し、本会の大嶋正紹共同代表と事務局の品田裕輔、協力者で九州大学の3年生である三好皓大氏の3人で行った。各団体からも興味深い活動報告があった。

閉会のあいさつとまとめは九州産業大学の山下三平教授が行った。

(5) 参加人数

4 人（本会会員）

※参加者については 200 名程度であった。

(6) 他機関連携など

九州大学工学研究院流域システム工学研究室

(7) 事業の成果

これまで、本会の活動フィールドである福津市や近隣自治体である古賀市、管内の保健福祉環境事務所が主催する行事で活動報告やパネリストとしてパネルディスカッションに参加することはあったが、福岡県全域から団体が集まる行事に参加し活動報告を行うことは昨年度から引き続き 2 回目の試みであった。

県内の様々な団体の前で活動報告を行うことで、上西郷川の多自然川づくりの取り組みを川づくりの団体のかたがたに広く知っていただくことができた。当日は福岡県の河川整備課など複数の行政機関も参加しており、行政機関にも本会の取り組みについて知っていただくことで、今後の河川管理者等との連携の円滑化が期待できるものとなった。

また、他団体の活動報告を聞いたことで他団体の取り組みを学ぶことができ、今後の活動の参考になる情報を得ることができた。特に子ども達と連携して行っている活動は、子どもたちの自己実現の場や子ども達だけでなく保護者や地域のかたがたの交流の場になっており、今後の本会の活動について考えていく上でも大変貴重な情報を得られる機会となった。福津市内で活動している団体のかたがたからも「上西郷川の取り組みを初めて知った。今後、機会があれば連携していきたい」とのお声掛けをいただき、今後の活動の取り組みが広がっていくきっかけを得ることができた。

また、夏の川遊び体験に続いて九州大学 3 年生の三好皓大氏が活動報告に協力してくださ

った。本会は会員の高齢化や固定化、担い手の不足という課題を持っている中で会員ではなくとも、様々な場面で協力して下さる協力者を得られたことは大きな成果であった。



写真 2.8 水もり自慢での活動報告の様子

2. 8 行政機関の行事への参加【令和6年12月22日、令和7年3月9日】

(1) 活動の目的

上西郷川は多自然川づくりの手法により本来の自然豊かな姿を取り戻し、10年以上が経過したが、その間河川周辺の人口が増加し、それに伴う下水処理水の放出量増加により顕著な水質悪化が確認され環境再生が急務である。そのためには河川管理者である行政との連携が不可欠である。行政との連携体制の構築の足掛かりを得るために、昨年度は福津市主催の環境シンポジウムに参加し、郷川づくりに関する話題提供を行った。また、福津市に隣接する自治体で大根川の川づくりに取り組む古賀市主催のK O G A環境活動自慢でも活動報告を行った。さらに、本会の会員や本会の活動に協力いただいている野中繁孝氏が福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所と共に、福津市内にある「手光ビオトープ」の保全にも携わっている経緯があり、福岡県からも環境保全団体の交流行事を行うので、協力してほしいとの依頼があった。

このような昨年度の経緯があり、今年度も引き続き、福津市、福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所から本会に対してそれぞれの行事の参加案内があった。

本会としても河川環境の再生を行うためには行政機関との連携は必要不可欠であり、様々なネットワークなどの資源を有している行政機関と連携していくことは持続可能な上西郷川の保全活動に寄与することが期待される。従って、今年度も行政機関との連携強化や協力体制を維持を目的に各行政機関の行事に参加し、活動報告などを行うこととした。

(2) 対象者

①ふくつウェルビーイング大賞応募（福津市主催）

福津市民、福津市内企業、福津市内で活動する環境保全団体、福津市役所職員

②環境保全団体交流会（宗像・遠賀・粕屋地域環境協議会（事務局：宗像・遠賀保健福祉環境事務所）主催）

宗像・遠賀・粕屋保健福祉環境事務所管内住民、管内で活動する環境保全団体、光陵高校うみがめクラブ及び教職員、福岡県職員

（3）実施方法

①ふくつウェルビーイング大賞応募【福津市主催・実施日：令和6年12月22日】

福津市地域コミュニティ課より本会に対して「上西郷川の取り組みは関わっている人々が充実感や楽しみを持って実践している幸福度が高い市民活動であると思う。そのような活動を紹介表彰する行事を行うので応募してみないか」という打診があった。

本会としても多くのかたがたやまちづくりに取り組む他の市民団体に活動を知ってもらうためにも良い機会であると考えたため、応募することとした。

応募した団体は本会も含めて21団体で、11月11日から12月20日までイオンモール福津や福津市未来共創センターなどで市民による投票が行われた。投票にあたっては本会の取り組みの紹介が掲示された。

投票期間終了後、12月22日に福津市内の宮司コミュニティセンターにて表彰式が実施された。

表彰式には本会から3名が参加した。

残念ながら大賞の受賞には至らなかったが、表彰式に出席することで、様々なまちづくりに関わる団体と交流を深めることができた。

②環境保全団体交流会【宗像・遠賀・粕屋地域環境協議会（事務局：宗像・遠賀保健福祉環境事務所）・実施日：3月9日】

宗像・遠賀保健福祉環境事務所より参加依頼があり、本会から2名が参加した。また、本会の活動に協力いただいている野中繁孝氏も参加された。

各団体への参加依頼、行事の告知、当日の会場設営、行事の進行は福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所の職員が行った。

令和6度はエフコープ福岡による「環境の取り組みと消費者の関り」と題した基調講演の後、3つの団体の活動報告があった。活動報告の後にはポスターセッションやパネル展示が行われた。

本会からは希望者に河川財団の支援で作成した上西郷川図鑑と郷川づくりフォーラムの告知チラシを配布した。

（4）活動内容

①ふくつウェルビーイング大賞応募【福津市主催・実施日：令和6年12月22日】

ふくつウェルビーイング大賞に応募した団体は本会も含めて21団体で、11月11日から12月20日までイオンモール福津や福津市未来共創センターなどで市民による投票が行われた。投票にあたっては本会の取り組みの紹介が掲示された。

投票期間終了後、12月22日に福津市内の宮司コミュニティセンターにて表彰式が実施

された。本会からは3名が出席した。

残念ながら大賞の受賞には至らなかったが、団体間の交流の時間では多くの意見交換を行うことができた。

②環境保全団体交流会【宗像・遠賀・粕屋地域環境協議会（事務局：宗像・遠賀保健福祉環境事務所）主催・実施日：3月9日】

はじめに宗像・遠賀保健福祉環境事務所の環境長よりあいさつがあった。

その後、エフコープ福岡から基調講演があった。

基調講演後、宗像・遠賀保健福祉環境事務所管内の3団体から活動報告があった。

活動報告後は、ポスターセッションなどの団体間交流の時間が設けられたため、様々な団体と意見交換を行うと共に上西郷図鑑等の配布を行った。

(5) 参加人数

①ふくつウェルビーイング大賞応募（福津市主催）60人

②環境保全団体交流会（宗像・遠賀・粕屋地域環境協議会（事務局：宗像・遠賀保健福祉環境事務所）主催）40人

(6) 他機関連携など

①ふくつウェルビーイング大賞応募（福津市主催）

福津市地域コミュニティ課、九州大学流域システム工学研究室、福津市内のまちづくり団体等

②環境保全団体交流会（宗像・遠賀・粕屋地域環境協議会（事務局：宗像・遠賀保健福祉環境事務所）主催）

宗像・遠賀・粕屋地域環境協議会、宗像・遠賀保健福祉環境事務所、九州大学流域システム工学研究室、宗像・遠賀保健福祉環境事務所管内環境保全団体

(7) 事業の成果

昨年度に引き続き、行政主催の行事に事例発表者として参加することができた。各行政機関から継続してお声掛けをいただけたことは、目的としていた行政機関との協力関係が構築できているということを体現する結果となった。また、上西郷川の多自然川づくりの取り組みを市民に広く知っていただきたい本会と地域における環境保全などの市民活動の機運を高めたい行政機関が協力することで、お互いのニーズをマッチングできたことは、本会と行政機関の相互協力の形を創出することにもつながった。

加えて、意見交換を伴う行事では、本会をはじめとした環境保全団体が抱える後継者育成や人材確保などの課題や環境保全団体と行政機関の連携の重要性を行政側の担当者と共有できたことも持続可能な活動や活動の広がりという観点から見て、大きな成果であった。

また、自然環境保全団体をはじめとして、教育機関や企業など様々なネットワークを持つ行政機関が主催するイベントに参加することで、今まで連携のなかった主体と交流したり、新しい視点や知識を得たりすることができたことも大きな収穫であった。参加者にとっても本会や様々な団体からの話題提供を受けることで、自然環境の保全について興味・関心が高まったのではないかと考えられる。

特にふくつウェルビーイング大賞に応募し、表彰式に出席したことは、環境保全以外の分野でまちづくりに関わる団体と交流する機会を得ることができた。様々な分野で活動する団体と交流ができたことは、今後の本会の活動の広がりにも寄与するものと期待される。



写真 2.9 イオンモール福津におけるふくつウェルビーイング大賞
応募団体の紹介パネル



写真 2.10 ふくつウェルビーイング大賞
表彰式の様子

2. 9 「子ども達と共に SDGs を考える会」への協力【令和6年10月6日】

(1) 活動の目的

「子ども達と共に SDGs を考える会」は福津市の認定農業者である友松修一氏が企画したイベントで、農業体験を通じ環境保全や地産地消、SDGs について学ぶことを目的としている。友松氏は令和4年度に上西郷川が流れる福間南小学校区内にある四角区自治会の自治会長をされている時に本会对し「自治会の子ども達に上西郷川の生き物観察を行う場を設けてほしい」と依頼してくださった。友松氏はそれからの縁で協力関係を持っている農業者である。

友松氏はハウレンソウやゴボウなどを栽培し「ふくおかエコ農産物認証制度」の認証を取得し、省力化、低コスト化を図りながら安全で安心な野菜づくりに取り組んでおられる。また、平成30年には品質、安全性、環境への配慮などの基準を満たした農作物に認められる「福岡県 GAP 認証制度」第1回の認証において、個人で唯一の認証を受けられている。上記のように友松氏は環境保全に対しても高い関心を持っておられ、本会の活動の趣旨にも賛同していただき、本会主催の郷川づくりフォーラムなどの行事にも地域住民と共に積極的に参加していただいている。

今回、友松氏より本会会員に対して「子ども達と共に SDGs を考える会」を開催するので協力いただけないかと依頼があった。企画内容は友松氏の農園で芋ほり体験を行い、農業体験を通じて環境保全や SDGs 等について学ぶことを目的としているものであり、活動内容が本会の活動に通じるものがあるということと、重要なパートナーである友松氏からの期待に応えると共に連携体制の強化を目的に行事の実施に協力することとした。

(2) 対象者

福津市民（小学生及びその保護者）

(3) 実施方法

行事は福津市内にある友松氏の農園で行った。

行事の準備などは友松氏が中心となって行った。

当日は本会から共同代表の大嶋共同代表と佐藤副会長、野口会員の3名が参加した。

(4) 活動内容

友松氏の説明を聞いた後、参加した子ども達は保護者と共に農園で栽培されているサツマイモの収穫を行った。

本会会員は芋ほり体験の手伝いを行った。

芋ほり体験終了後、友松氏が環境保全や SDGs に関する講話を行った。

大嶋共同代表からも上西郷川の多自然川づくりに関する説明を行った。

(5) 参加人数

46人（うち本会会員3名）

(6) 他機関連携など

友松農園（友松修一氏）

(7) 事業の成果

本会の活動において地域の重要なパートナーである農業者の友松氏の取り組みに協力できたことは協力体制の維持や強化の観点から大きな成果となった。

また、友松氏の取り組みに協力することで農業という本会の活動とは異なる視点を通じた環境保全の在り方について学ぶことで本会の活動における引き出しを増やすことができた。



写真 2.11 芋ほり体験の様子

2. 10 雨庭の実装【令和7年3月20日～3月22日】

(1) 活動の目的

上西郷川は多自然川づくりの手法によって元の姿を取り戻したが、自然再生を行うに当たって、洪水に強い川づくりが行われている。近年、上西郷川を流れる福津市でも豪雨が頻発することがあるが、上西郷川は川幅が広く蛇行などによって制水が行われており、コンクリートで河川改修されていた時期と異なり氾濫が起きていない。また、川の流れがゆっくりであることで増水時でも本流である西郷川への流量の調整ができており、本流の洪水抑制にも貢献している。これらのように上西郷川はグリーンインフラとしても市民生活を

支えている。

本会は福岡南小学校と連携し、4年生が取り組んでいる上西郷川を題材とした総合学習に協力しているが、日本各地で頻発する豪雨災害などで児童や教職員、地域住民の防災に関する関心も高まっており、それに合わせて流域治水教育もますます重要になっている。令和4年度に開催した第4回郷川づくりフォーラムにおいても当時福岡南小学校4年生だった児童から治水における「雨庭（レインガーデン）」の効果に関する発表があり「学校に雨庭をつくりたい」という意見があった。これらの背景や当時の児童の想いを汲み、児童や教職員、地域住民に行うために河川財団の支援のもと、令和5年度に福岡南小学校構内に雨庭を設置した。本会においてこの取り組みが契機となり「流域内に雨庭を広げていきたい」という新たな目標が見つかった。

令和6年度において、新たな雨庭の設置について協力いただける教育機関等を探していたところ、本会の大嶋共同代表が福津市教育委員会在籍時に保育所・幼稚園・小学校の連携に関する業務に携わっていたこともあり、福岡南小学校区にある「しらぎく幼稚園」の先生がたから「園庭に昔水田だったスペースがあるのだが、水はけが悪く困っている」との相談が寄せられた。そこで「集水機能などがある雨庭を設置してみてもどうか」とご提案したところ「ぜひ設置してほしい」とご回答をいただいた。

以上の経緯より流域内に流域治水の普及啓発や魅力を発信していくことを目的として新たな雨庭をしらぎく幼稚園の園庭に設置することにした。

(2) 対象者

しらぎく幼稚園の園児及び教職員、保護者、地域住民

(3) 実施方法

しらぎく幼稚園の園庭内のスペースに雨庭を設置した。

雨庭の施工内容については本会の共同代表である九州大学の林准教授とNPO法人SOMAの瀬戸昌宣代表理事の打ち合わせにより決定した。瀬戸氏はアメリカのコーネル大学にて博士号（農学博士）を取得し、同大学で研究と教育に10年間従事した後、日本に帰国し、高知県の中山間地域をはじめ複数地域の学校教育・社会教育の改革に取り組みまれてきた。平成29年にNPO法人SOMAを設立し「ひとが育つ環境をととのえる」をミッションに学びの環境づくりや自然環境の保全活動を行っている。現在は福津市を拠点とし、生態学や土木技術の知見を駆使して山林や鎮守の杜等の保全や再生に取り組んでおられる。林共同代表と瀬戸氏に面識があったため、今回の雨庭づくりをNPO法人SOMAに依頼する運びとなった。雨庭の設置は3月20日から22日までの計3日間で行った。

当日はカリキュラムの都合で園児は施工に参加できなかった。

施工の際、スケジュールが合わず本会会員は参加できなかったが、施工完了後の状況確認を行った。

(4) 活動内容

NPO 法人 SOMA の協力のもと、しらぎく幼稚園の園庭に雨庭の設置を行った。
雨庭の設置に当たっては、植栽は既存の植物を利用した。また、雨水を地中に浸透させやすくするために、砂利やわらなどを敷き詰めた「州浜」を設けた。
また、園庭の一部に新たに勾配を設け、州浜部分に水が集まるような仕組みを設けた。

(5) 参加人数

NPO 法人 SOMA 2 人

(6) 他機関連携など

しらぎく幼稚園、NPO 法人 SOMA、九州大学工学研究院流域システム工学研究室、

(7) 事業の成果

令和 4 年度に上西郷川の川づくりに関する学習を通じて治水について関心を持った福間南小学校の当時の 4 年生から「学校に雨庭がほしい」との意見をいただいた。令和 5 年度に実際に本格的な雨庭を設置できたことでその想いに応えることができたことで、本会としても「流域内に雨庭を広げていきたい」という目標ができ、今年度新たな雨庭を流域内に実装できたことは大きな成果であった。

授業等日程の都合で園児たちと一緒に施行できなかったことは残念ではあるが、新たな雨庭は流域治水のシンボルとして子ども達をはじめ関係者のかたがたや地域住民の興味・関心を引き立てるものとして期待される。

近年は市民の防災意識も高まっている中で、雨庭のように自然の力を利用した水害防止の取り組みを普及啓発していくことは、流域治水を進めていくためにも重要であり、今回実装した雨庭は児童だけでなく、地域住民にとっても良い教材になり得る。

今後は本会としても多自然川づくりと併せて雨庭の紹介も行いながら、グリーンインフラによる流域治水の普及啓発にも取り組んでいきたい。

また、今回の雨庭の設置を通じて NPO 法人 SOMA の瀬戸代表理事との関係を築くことができた。瀬戸氏は山林の保全を通じた流域治水に取り組まれており、本会の活動に対して以前から興味を持たれていて、機会があれば連携した取り組みを行いたいとの希望を持たれていたとのことである。山と川はつながっており、自然環境の連続性の観点からも本会と NPO 法人 SOMA が連携を図っていくことは、流域治水の取り組みに新たな展開が生まれることが期待される。



写真 2.12 雨庭の設置状況

3章 活動の反響

令和6年度については、特にマスコミの取材を受けることはなかったが、ふくつウェルビーイング大賞に応募したことで本会の取り組みについて、福津市役所の広報紙「広報ふくつ3月号」にて紹介いただいた。また、「広報ふくつ5月号」の読者の投稿コーナーに市民からイオンモール福津の空きテナントに設置している展示を紹介する投稿記事があった。

また、令和6年7月26日には大阪市の建設コンサルタントの技術士のかたがたの視察対応を行うことで、上西郷川における川づくりの取り組みについて紹介する機会を得た。

また、今年度は本会の活動実績が積み上がっていくことで、引き続きイオンモール福津での水槽展示を実施できただけでなく、空きテナントを活用した展示という形で充実化を図ることができた。また、福津市立福間南小学校や四角区自治会の農業者である友松氏との連携を維持・強化することができた。加えて、神興地域郷づくり推進協議会や郷川フォーラムに参加して下さった福津市立上西郷小学校や上西郷地域郷づくり推進協議会といった福間南小学校区外の教育機関や団体と引き続き交流することができ、連携体制の強化につながった。

また、令和6年度も引き続き行政機関が主催する行事に参加することで、相互協力の体制を維持することができた。

上記のように、確実に本会の活動の認知度は高まっており、今後も様々な主体と共働して、上西郷川の保全活動が今後も優良な河川環境保全の取り組み事例として評価されるよう、継続的な活動に努めていきたい。

4章 総合評価

今年度、当初計画していた事業については福間南小学校とのスケジュールが合わず、市民普請による河川工事は実施できなかったが、昨年度に引き続き「夏の川遊び体験」を実施するなど、地域の子ども達を対象とした環境教室を実施することができた。また、流域内に新たな雨庭を設

置するという新たな目標を掲げている中で、上西郷川が流れる福間南小学校区内のしらぎく幼稚園の園庭に雨庭を設置することができた。近年は市民の防災意識も高まっている中で、雨庭のように自然の力を利用した水害防止の取り組みを普及啓発していくことは、流域治水を進めていくためにも重要であり、今回実装した雨庭は子ども達だけでなく、地域住民にとっても良い教材になると期待されるため、積極的に活用していきたい。防災教室も実施できなかったが、川遊び体験やふくつ環境シンポジウム、ふくおか水もり自慢などで上西郷川のグリーンインフラとしての洪水抑制機能について紹介することができた。このことは防災の観点からも多自然川づくりが重要であることを市民に伝えることにつながった。今後も行政機関や自治会等とのネットワークを活用し、流域治水の普及啓発だけではなく、市民普請による生物の生息環境の整備などに取り組んでいきたい。

郷川づくりフォーラムについてはイオンモール福津の全面協力により前年度に引き続き、参加者が100人を超える規模で実施することができた。今年度も福間南小学校と上西郷川の本流である西郷川において学習を行っている上西郷小学校による活動報告だけでなく、新たに環境省福岡事務所の鈴木自然保護官による話題提供をいただくなど内容についても充実させることができた。特に流域内の2つの小学校の児童や保護者などが交流できた機会を設けることができたことは、本会の目標である上西郷川を通じた地域のネットワークや拠り所づくりを実現する機会となった。また、イオンモール福津のかたがたから会場借用や準備について協力いただいたことは地域の企業との連携を深めることにつながった。

さらに九州大学3年生の三好氏と落合氏、河合氏が本会の活動に共感してくださり、昨年度に引き続き本会の活動に協力してくださったことは新たな人材の確保につながり、本会の取り組みの持続性や内容の充実化などに好影響をもたらした。

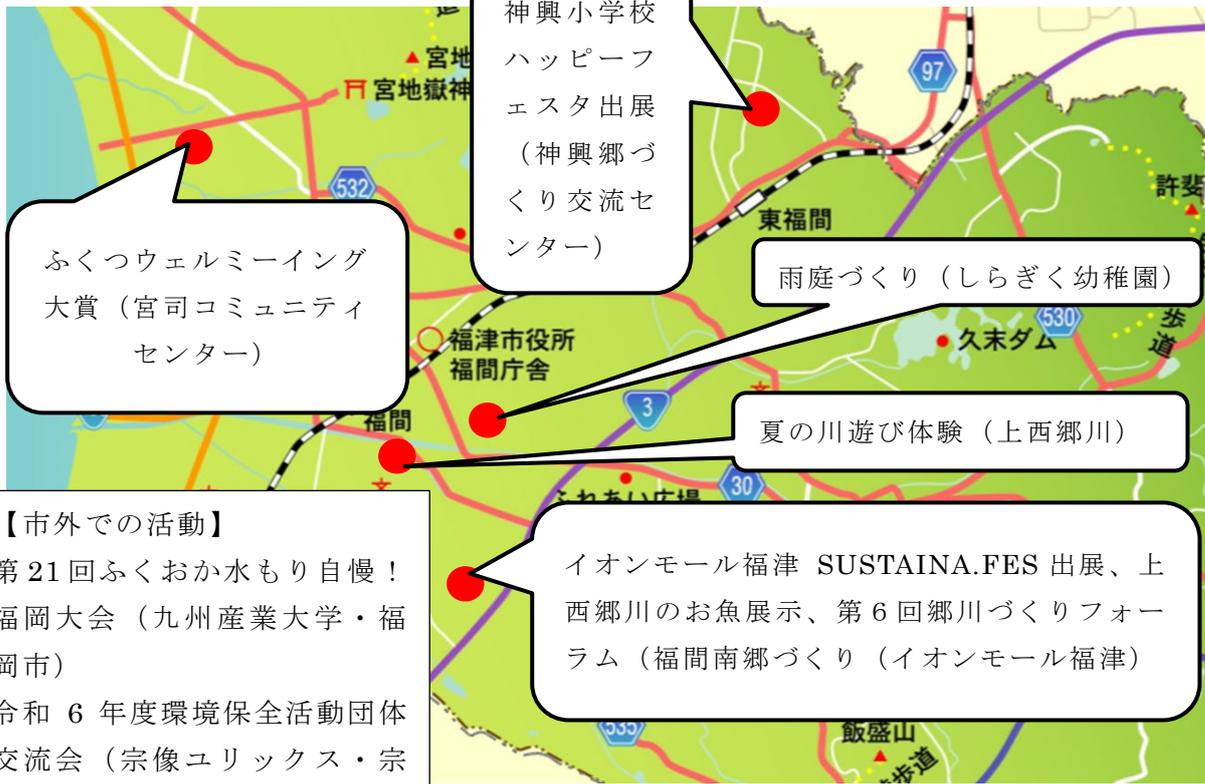
人材育成や環境教育プログラムの確立については地域コミュニティ組織が主催する環境教育への協力の展示依頼に対応することを通じて、川づくりにおける教育プログラムの知見を集積することができた。一方でプログラムの確立についてはまだ道半ばであり、今回得られた知見や成果を踏まえると共に河川基金の支援により改訂を行った上西郷川図鑑などのコンテンツを活用しながら引き続き、上西郷川を題材とした環境保全の在り方について学べるような人材育成・教育プログラムの構築を進め、市民に魅力ある地域資源を紹介できるように努めていきたい。

令和6年度は福津市や福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所が主催する行事に引き続き参加して活動報告などを行った。これらの行事は素晴らしいものではあるが、管内住民や団体が主な対象となってしまう、広い範囲での交流が難しいところもあるが、ふくおか水もり自慢に会として参加したことで、流域外で行われている川づくりや地域づくりの取り組みについて学ぶことができた。今後も流域内や近隣との交流だけでなく、ふくおか水もり自慢のような広域連携の場にも積極的に参画していきたい。

以上のように、令和6年度は前年度の取り組みを継続しながら新しいことにもチャレンジし、様々な成果を挙げるすることができた。特に、新たな雨庭の実装という流域治水の普及啓発や魅力の発信に向けた取り組みが実現できたことと、イオンモール福津や福間南小学校、上西郷小学校のかたがたや環境省福岡事務所の鈴木自然保護官などの協力を得て実施した第6回郷川フォーラムにおける流域内連携の深化は今年度の大きな成果として評価できる。また、イオンモール福津の連

携強化に伴う空きテナントを活用した本会の取り組みや上西郷川に関する長期展示の実現も特筆すべき成果であると評価できる。

今年度の活動を通じて、有識者や市民及び教育機関のかたがた、イオンモール福津のかたがたに評価いただいたように、本会の活動は都市における市民の力による河川環境保全の優良事例であり、市民や地域の期待するところも大きい。今後も市民の期待に応え、福津市の宝である上西郷川を後世に残していけるよう、今回の助成事業を通じて得られた地域や企業、行政機関とのネットワーク、活動を通じて蓄積したノウハウや河川基金の支援で作成した上西郷川図鑑等を活用し、今後の持続可能な活動展開と活動の充実化につなげていきたい。また、郷川づくりフォーラムにて鈴木自然保護官から「我が国は30by30の目標に基づき、自然共生サイトの認定場所の増加を目指しているが、上西郷川で行われている多自然川づくりは認定に値する取り組みであると考えられる。今後も活動を継続し、自然共生サイトの認定をめざしてほしい」との評価とメッセージをいただいた。今後は自然共生サイトの認定も見据えながら活動を進めていきたい。

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-61111-027	上西郷川における 22 世紀へむけた郷川（さとがわ）づくりの実践	上西郷川日本一の郷川をめざす会・大嶋 正紹
	<p>主な実施箇所</p> <p>上西郷川、イオンモール福津、神興郷づくり交流センター、宮司コミュニティセンター、聖愛幼稚園他</p>	
<p>助成事業の主な実施箇所</p>	 <p>神興小学校 ハッピーフェスタ出展 (神興郷づくり交流センター)</p> <p>雨庭づくり(しらぎく幼稚園)</p> <p>夏の川遊び体験(上西郷川)</p> <p>イオンモール福津 SUSTAINA.FES 出展、上西郷川のお魚展示、第6回郷川づくりフォーラム(福間南郷づくり(イオンモール福津))</p> <p>ふくつウェルミーンング大賞(宮司コミュニティセンター)</p> <p>【市外での活動】 第21回ふくおか水もり自慢!福岡大会(九州産業大学・福岡市) 令和6年度環境保全活動団体交流会(宗像ユリックス・宗像市)</p>	
<p>河川基金ロゴ等表示状況写真</p>	<p>遠景</p> 	<p>近景</p> 